

【事業名】 ミヤコカナヘビの保全に向けた基礎調査と地域連携型活動体制の構築および宮古島モデルの他の諸島地域への波及（沖縄県宮古島市）

【団体名】 公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）

令和2年度
生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10-6

事業の背景・目的

宮古諸島は比較的新しい地質に覆われながら遺存性の高い固有種を擁する点で学術的に価値が高い。しかし、陸上生態系への関心は低く、保全活動も乏しい。国内希少野生動植物種に指定され、宮古諸島の生態系を代表するミヤコカナヘビに関しても、その認知度は低く、その基礎調査も十分でない状態である。本事業ではWWFが琉球大学らと2017年より行ってきた生物学的調査・研究を基に地元での普及と地域の官民連携での保全体制構築を目指す。



事業の内容

事業①調査事業

ミヤコカナヘビの分布やその違法取引に関する調査結果を活用して、研究者・地元団体・宮古島市・宮古島警察署と保全・普及策や密猟対策について協議。

事業②普及事業

宮古島にてミヤコカナヘビ生体展示イベントを開催・実施協力、TV新聞等でも報道され、多くの島民が参加。宮古市市内小学生向けの普及グッズを開発・製作。

事業③地域体制構築事業

宮古諸島希少種保全・外来種問題に係る連絡会議に参加し、関係間の連携強化。地元児童館による子ども向けミヤコカナヘビ普及活動を開始。

事業④地域モデル発信事業

沖縄本島・石垣島・西表島において、地元住民への普及や希少種の密猟・持ち出しといった共通課題に取り組む団体・個人へのヒアリングを実施。

得られた成果

2020年7月開催「みやこ島のふしぎないきものたち」には島内児童70名・保護者20名以上が参加、2020年11月開催の環境省・JAZA主催「ミヤコカナヘビ展示会」（宮古島市・WWF協力）には期間中2000名超の来場者があり、TV新聞など多くのメディアで報道され、ミヤコカナヘビの価値とその危惧状況について、島民向けの普及が進んだ。また宮古島島内において、宮古島警察署との協議開始など、ミヤコカナヘビを含む希少種の密猟・持ち出し対策に関する活動を開始した。

今後はミヤコカナヘビの認知度を島民の過半数に高めるためさらなる普及活動を行い、またミヤコカナヘビを含む希少種の密猟・持ち出し対策のための連携も進め、地元主体の保全活動を推進していく。

